

## 他府県の公立高校(全日制)における全国募集の事例

(各都道府県・市町村教育委員会、各学校のホームページなどをもとに高校教育課で作成)

県名	高校名	全国募集実施の学科・コース等 (募集定員)	H27 実績	備考 (他の設置学科等)	寮
北海道 (1/225)	北海道おといねっぷ 美術工芸高校	工芸 (40) の 50% (一般選抜に限る)		音威子府村立	○
茨城 (4/92)	太子清流	森林科学 (40)	0	総合学科 (120)	△
	海洋	海洋技術 (40) 海洋食品 (40) 海洋産業 (40)	1		△
	大洗	普通科 (120) の音楽コース (40)	18	マーチングバンド	○
	真壁 (H28 より)	環境緑地 (40)		普通 (40) 農業 (40) 食品科学 (40)	○
群馬 (3/66)	嬭恋 (H28 より)	普通(64)のスポーツ・健康コ ース(16)		スケート実技専攻	△
	尾瀬	自然環境 (32)		普通 (32)	△
	万場	普通 (64) 水産コース希望者 のみ			△
栃木 (2/59)	日光明峰 (H28 より)	普通 (160)		アイスホッケー スピードスケート	△
	馬頭	水産 (25) の 5 人	5 人 程度	普通 (120)	△
新潟 (9/81)	海洋	水産 (80)	数名		○
	新潟中央	音楽 (40)	数名	普通(240) 普通・学究(80) 食物(40)	
	新津工業	工業マイスター (40) 日本建築 (30)	数名	生産工学(40) ロボット工学(40)	
	国際情報	国際文化 (80) 情報科学 (80)	数名		○
	八海	体育 (40)	数名	普通(40) 家庭福祉(40)	
	新発田農業	農業 (160)	数名		
	加茂農林	農業 (200)	数名		
	長岡農業	農業 (160)	数名		
高田農業	農業 (160)	数名			

※県名の下の数字 全国募集を実施している学校数/全日制公立高校総数(分校も1校としてカウント)

※寮の欄 ○寮有 △里親、下宿、ホームステイ等

※H27 実績の欄 平成 27 年度全国募集での入学者数 (公表分のみ)

県名	高校名	全国募集実施の学科・コース等 (募集定員)	H27 実績	備考 (他の設置学科等)	寮
石川 (1/40)	長尾東雲	演劇 (40)	2~3	電子機械(80) 総合経営(80)	
山梨 (1/31)	北杜市立甲陵	中高一貫 普通 (120) 高校から入学(80)の 50% (最大 50 人までは入学許可)	40~ 50	定員 120 の内 40 は内 部進学	○
長野 (2/83)	白馬 (H28 より)	国際観光 (40)		普通(40)	○
	飯山	スポーツ科学 (スキー・野球・ 陸上競技・剣道の専攻) (40)	2	普通(120)、 自然科学探究・ 人文科学探究(80)	
滋賀 (1/49)	信楽	総合学科 (80) の 5 人	☆	デザイン系列、セラミ ック系列に限る	○
兵庫 (1/142)	村岡	普通 (地域アウトドアスポー ツ類型) (80)の 50%	1		△
奈良 (4/34)	山辺	普通 (生活文化コース) (40) 生物科学(37) 各定員の 10%	0	普通 (学びの開拓) (40) 馬術、ライフル射撃	
	御所実業	環境緑地(37) 機械工学(74) 電気工学(37) 都市工学(37) 薬品科学(37) 各定員の 10%	13	ラグビー 薬品科学は強い目的 意識がある者	
	榛生昇陽	普通 (人間探究コース) (40) の 10%	0	普通(総合選択)(120) 福祉(40) 自転車競技	
	十津川	普通(工芸コース)(30)の 10%	0	普通 (工芸コース以 外) (40) ボート又は強い目的 意識がある者	○
和歌山 (4/36)	海南 美里分校	普通(40)の 10%	0		
	有田中央 清水分校	普通(40)の 10%	0		
	日高 中津分校	普通(40)の 30%	9		○
	南部 龍神分校	普通(40)の 10%	2		○
鳥取 (5/22)	八頭 (H28 より)	普通 (体育) (40)の 2 人		普通 (探究文科、探究 理科、総合) (240)	
	智頭農林 (H28 より)	農業(80)の 4 人			
	倉吉農業 (H28 より)	農業 (生物) (38)の 1 人		食品(38) 環境(38)	○
	鳥取中央育英 (H28 より)	普通 (体育) (40)の 2 人		普通 (普通) (120)	○
	境 (H28 より)	普通(200)の 2 人			

☆資料 13-2 参照

県名	高校名	全国募集実施の学科・コース等 (募集定員)	H27 実績	備考 (他の設置学科等)	寮
島根 (36/36)	隠岐	普通(60) 商業(30)	4	①左記の定員以外に 各校指定部活動で 県外からの入学枠 あり ②島根県立高校は、左 記の 19 校以外でも 各校 4 人までは県 外からの入学が可能	○
	隠岐水産	海洋システム(40) 海洋生産(40)	10		○
	隠岐島前	普通 (特別進学コース、 地域創造コース) (80)の 30%	☆		○
	浜田水産	海洋技術(40) 食品流通(40)	2		○
	横田	普通 (総合コース、進学コース) (120)	4		○
	飯南	普通(80)	3		○
	島根中央	普通(90) (コース制、総合選 択制)	22		○
	矢上	普通(60)の 30% 産業技術 (30)の 40%	13		○
	津和野	普通(80)	4		○
	吉賀	普通(40)	2		○
	安来 (H28 より)	普通(160)			△
	情報科学 (H28 より)	情報システム(40) マルチメディア(40) 情報処理(40)			
	大東 (H28 より)	普通(120)			
	三刀屋 (H28 より)	総合学科(160)の 8 %			○
	邇摩 (H28 より)	総合学科(「農業」「ビジネス」 「生活」「文化」「福祉」) (120) の 8 %			○
	江津 (H28 より)	普通(80)の 10%			
	江津工業 (H28 より)	建築・電気(40) 機械・ロボット (40)			○
	浜田商業 (H28 より)	商業、情報処理 (80)			
	益田翔陽 (H28 より)	電子機械(40) 電気(40) 生物環境工学'(40) 総合学科(40)			○
広島 (6/88)	佐伯	普通(40)のうち若干名	0		
	加計	普通(40)のうち若干名	0		○
	加計 芸北分校	普通 (1 学級) の若干名	0		△
	大柿 (H28 より)	普通(40)の 4 人程度			○
	西城紫水 (H28 より)	普通(40)のうち若干名			○
大崎海星 (H28 より)	普通(40)のうち若干名			○	
山口 (1/57)	周防大島	普通(75)の 10% 地域創生科(40)の 10%	10 1		○

☆資料 13-2 参照

県名	高校名	全国募集実施の学科・コース等 (募集定員)	H27 実績	備考 (他の設置学科等)	寮	
徳島 (13/34)	那賀	普通(60) 森林クリエイト(20) 総定員(80)の5人	普2		県立総合 寄宿舎を 6ヶ所に 設置	
	海部	普通(80) 情報ビジネス(20) 数理科学(30) 総定員(130)の5人	普1			
	鳴門渦潮		スポーツ科学(60)の15% (各種目3人)	6		
			総合学科(170)の2人	1		
	城西 神山分校 (H28より)	生活(10) 造園土木(20) 総定員(30)の5人				
	小松島 西勝浦校 (H28より)	応用生産(25) 園芸福祉(20) 総定員(45)の5人				
	富岡東 (H28より)	普通(160) 商業(40) 総定員(200)の2人				
	名西 (H28より)	芸術(45)の15%		普通(110)		
	吉野川 (H28より)	農業 (農業科学(25) 生物活用(20)) 商業 (会計ビジネス(25) 情報ビジネス(30) 食ビジネス(30)) 総定員(130)の5人				
	穴吹 (H28より)	普通(80)の5人				
	脇町 (H28より)	普通(210)の2人				
	つるぎ (H28より)	電気(50) 機械(55) 建設(25) 商業(25) 地域ビジネス(25) 総定員(180)の5人				
池田 (H28より)	普通(145) 探究(35) 総定員(180)の2人					
三好 (H28より)	食農科学(20) 環境資源(15) 総定員(35)の5人					
鹿児島 (1/72)	楠隼	中高一貫(60)	中28 高9		○	
沖縄 (0/59)	久米島	普通(80) 園芸(40) 総定員の10人程度	10	全国募集ではなく町の里親制度を活用	○	

## 他府県の公立高校（全日制）における全国募集の詳細例

### ■ 滋賀県立信楽高等学校（募集定員 80 人中 5 人を全国募集）

設置学科	総合学科（普通系列、デザイン系列、セラミック系列）
背景	<ul style="list-style-type: none"> <li>・少子化による生徒数が減少               <ul style="list-style-type: none"> <li>→平成 23 年 7 月の県立高校再編計画（原案）で甲南高校の分校化と県外留学制度導入等の活性化案を提示</li> <li>→甲賀市が支援を表明し、単独校として存続</li> </ul> </li> <li>・デザイン系列、セラミック系列に 5 人の全国募集枠を設定</li> </ul>
県外入学生 の推移	平成 26 年度全国募集を開始。5 人が入学（京都、兵庫、愛知、三重より） 平成 27 年度 大阪、京都、三重より入学生あり
学校の特色	信楽焼の焼成技術を生かした穴窯、紫雲窯（しうんがま）があり、陶芸部の活動や、授業での焼成作業に使われている。
その他	全国からの入学者に対して、地元の各種団体で設立された「信楽高等学校地域支援協会」から、「身元引受」「宿舍の斡旋」「学校生活のサポート」等の生活支援、寮費等の補助あり

### ■ 兵庫県立村岡高等学校（募集定員 80 人の 50%までを全国募集）

設置学科	普通科 地域アウトドアスポーツ類型（地域創造系、アウトドアスポーツ系）
背景	<ul style="list-style-type: none"> <li>・少子化による生徒数が減少               <ul style="list-style-type: none"> <li>→生徒確保のためアウトドアスポーツを目玉にした、地域アウトドアスポーツ類型新設。</li> </ul> </li> </ul>
県外入学生 の推移	平成 26 年度より全国募集を開始。平成 27 年度に 1 人大阪府より入学。 県内南部（西宮、川西、姫路、尼崎、神戸等）からの入学者もあり
学校の特色	スキー部 兵庫県総合体育大会 28 連覇中
町の主な 施策	<p>香美町高等学校生徒下宿費補助金</p> <p>（目的）町内に設置の県立香住高校、県立村岡高校の存続発展と地域の活性化に資する</p> <p>（内容）自宅から遠距離等により通学困難な生徒が香美町内に下宿する場合に、その生徒の保護者の経済的負担の軽減を図るため、その保護者に対し、下宿費の一部を予算の範囲内で交付 （ひとりにつき月額 40,000 円を上限）</p>
その他	<p>香美町「地域おこし協力員」（神戸市出身の 2 人が活動中）</p> <p>主に人口減少や高齢化の進行が著しい小規模集落を中心に地元産品の開発、地域行事やイベントの応援等の支援、小中高が連携した活動のコーディネートや 学校が地域イベントへ参画するための仕掛けづくりなどを実施</p>

■ 島根県立隠岐島前高等学校（募集定員 80 人中 24 人+レスリング部 2 人以内）

設置学科	普通科 特別進学コース・地域創造コース																							
背景	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 昭和 33 年全国で初めて全日制の分校となる（地元負担で校舎建設し独立）</li> <li>・ 少子化の影響で入学者が激減し、各学年 1 クラスになる</li> <li>・ 平成 17 年から 3 年間で常勤教員が 7 人減少（物理が履修不可能に）</li> <li>・ 平成 20 年度の入学者数は 28 人に</li> </ul> <div style="text-align: center;">  </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 島からの提言「隠岐島前高等学校魅力化構想」～島内外から生徒が集まる高校づくりに向けて～を発表（平成 21 年 2 月）</li> <li>・ 提言の要旨             <ul style="list-style-type: none"> <li>①魅力的なカリキュラム編成 ②教員数の確保 ③学力向上とキャリア教育の充実 ④部活動の魅力化 ⑤交流の促進 ⑥寮の活用 ⑦島内外への PR 活動の充実</li> </ul> </li> </ul>																							
県外入学生の推移	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th style="width: 30%;">年度（平成）</th> <th>20 年度</th> <th>21 年度</th> <th>22 年度</th> <th>23 年度</th> <th>24 年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>県外からの入学生数</td> <td>1</td> <td>0</td> <td>5</td> <td>8</td> <td>32</td> </tr> <tr> <td>全入学生数</td> <td>28</td> <td>33</td> <td>34</td> <td>40</td> <td>59</td> </tr> </tbody> </table> <p>※平成 27 年度、全校生徒 160 人中 17 都道府県からの生徒が 79 人在籍</p>						年度（平成）	20 年度	21 年度	22 年度	23 年度	24 年度	県外からの入学生数	1	0	5	8	32	全入学生数	28	33	34	40	59
年度（平成）	20 年度	21 年度	22 年度	23 年度	24 年度																			
県外からの入学生数	1	0	5	8	32																			
全入学生数	28	33	34	40	59																			
学校の特色	部活動の充実（全国大会出場のレスリング部） スーパー・グローバル・ハイスクール（平成 27 年度より）																							
町の主な施策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 子育て支援条例 結婚祝金、すこやか祝金（出産祝金）、妊娠・出産、子どもの通院等に係る交通費助成、保育料軽減、転入児童生徒等奨励金、乳児医療、チャイルドシート購入費助成、一般不妊治療費助成事業、海士町頑張る子ども応援事業補助金（大会参加補助）</li> <li>・ 海士町子育て支援金</li> <li>・ 隠岐島前高等学校・鏡浦寮に係る支援制度（入寮費、寮費の半額、里帰り交通費補助）</li> <li>・ 隠岐國学習センター（公営塾、有料）設立（平成 22 年 6 月）</li> </ul>																							
その他	島前高校魅力化プロジェクト策定 （目指すもの） <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 生徒一人ひとりの夢の実現</li> <li>2. 地域の未来をつくる人財の育成</li> <li>3. 持続可能な魅力ある学校づくりの推進</li> </ol>																							

## 都道府県立高校の適正規模・再編整備基準等に係る調査結果

H27年7月現在 高校教育課調べ

都道府県	策定年度	対象年度	再編整備の基準	適正規模					最小規模 (1学年あたりの 学級数)	分校化の基準	
				3～8 学級	4～8 学級	5～8 学級	6～8 学級	その他			
北海道	H18	H20～	○		●						
青森県	H24	H26～H29	○					●	・青森市、弘前市及び八戸市の普通高校については1学年当たり6学級以上 ・その他の全ての高等学校については、1学年当たり4学級以上	1学級募集の学校は、全学年1学級規模となった段階で校舎制(分校)に移行することとしていたが、「県立高等学校教育改革第3次実施計画【後期】」では、計画期間終了後に生徒急減期が見込まれ、次期計画で改めて県立高校の在り方について検討するため、新たに1学級募集とする学校は校舎制としていない。	
岩手県	(策定予定)								望ましい学級規模 4～6学級	今後検討 震災等の影響もあり、既に1学級規模の本校が存在	
宮城県	H24	H26～H30								本校2学級 分校2学級	
秋田県	H22	H23～H27	○		●					本校2学級 分校1学級	1学年2学級規模で存続している学校において、入学者数が応募人員の2/3以下の状態が2年間続いた場合、学校や地域の実情を考慮した上で、分校(キャンパス)化や統合、募集停止等を検討する。
山形県	H26	H27～H36	○		●						1学年当たり2学級の学校については、入学者数が2年連続して入学定員の2/3に満たない場合は、その翌年度から入学定員を1学級分に減じ、更にその2年後に分校とする。ただし、この基準の適用に当たっては、学科等の特殊性や交通事情等の地域の実情に十分に配慮する。
福島県	H11	H11～H19	○		●					本校2学級 分校1学級	1学年2学級規模の本校において、入学者数が募集定員の1/2以下の状態が3年続いた場合、その翌年度から分校とする。
茨城県	H21	H23～H32	○		●					本校2～3学級 分校1学級	2学級で生徒募集を行う県北山間部の過疎地域の留保校においては、募集定員から入学者数を引いた数が2年連続して40名以上となった場合、原則として翌年度の生徒募集を停止し統合する。ただし、地域の実情等によっては、分校化して1学級で生徒募集を行うことを検討する場合もある。 ※「県北山間部の過疎地域」: 過疎地域自立促進特別措置法[平成12年4月1日施行]の規定により公示された地域 ※「留保校」: 地域の実情等を勘案して統合の実施を留保し、3学級で生徒募集する学校
栃木県	H15	H17～H26	○		●					本校4学級	
群馬県	H22	H24～H33	○		●						
埼玉県	H11	H11～H25	○				●		全日制 普通科・総合学科8～6学級 専門学科6学級		
千葉県	H23	H24～H33	○		●				全日制 原則都市部で1学年6～8学級 郡部で1学年4～8学級	本校4学級	
東京都	(検討中)										
神奈川県	H11 H27	H12～H21 H28～H39	○						現行の標準規模(6～8学級)以上。ただし、クリエイティブスクール等については、現行の規模を維持することも含め、それぞれの学校や生徒の実態に応じた学校規模とする。		
新潟県	H27	H30～ ※概ね10 年程度	検討中						※過去に適正規模を4から8学級としていたが、現在検討中	検討中	検討中
富山県	H19	H20～H27	○		●						
石川県	H19	H20～	○		●					本校3学級	
福井県	H20	H21～H26	○		●						
山梨県	H21	H22～H31	○		●					本校4学級	
長野県	H21 H29	H19～H29 H30～H40	○						6学級を標準とし、2～8学級の間で設定(H29まで)	本校2学級 分校1学級 (H29まで)	下限規模2学級を下回る場合で、以下のⅠまたはⅡの状態が2年連続した場合、① 地域キャンパス化(分校化)、② 他校との統合(新たな高校をつくる)、③ 募集停止のいずれかとする。(H29まで) Ⅰ 全校生徒数が120人以下の場合 Ⅱ 全校生徒数が160人以下で、かつ卒業者の半数以上が当該高校へ入学している中学校がない場合
岐阜県	H28 (予定)	H31～	○		●						
静岡県	H16	H17～H27	○				●		・標準規模ととらえている。 ・過疎地域にある高等学校は弾力的に対応 ・専門学科等、教育内容の特色や生徒及び地域の実情を踏まえ、弾力的に対応		

都道府県	策定年度	対象年度	再編整備の基準	適正規模					最小規模 (1学年あたりの 学級数)	分校化の基準
				3～8 学級	4～8 学級	5～8 学級	6～8 学級	その他		
愛知県	H26	H27～H36	○				●			全日制は基準は明記はしていないが、従来より各学年1学級となった時点で分校としている。
三重県	H24	H24～H28	○	●				全日制 原則として1学年3学級以上8学級以下		1学年2学級以下の高校は改めて設置の意義を検証し、原則分校とするとともに、近隣の高校との統廃合を視野に入れて、活性化に係る協議を行う。
滋賀県	H24	H24～H33	○				●			
京都府	H16		○					8学級 単位制高校(総合学科を含む) は6学級程度		
大阪府	H24 H25	H25～H34 H26～H30	○				●	全日制普通科6～8学級		
兵庫県	H20	H21～		●				普通科6～8学級 総合学科4学級以上 職業教育を主とする学科の単独 校3学級		
奈良県	H13 H15	H16～H20						8学級		
和歌山県	H17 H27	H28～H37	○		●					
鳥取県	H24	H25～H30			●					
島根県	H20 H30	H21～H30 H31～H40	○		●			「望ましい規模」としている。		
岡山県	H24	H25～H30			●					
広島県	H25	H26～H35	○					中山間地域:2～6学級を基本 他の地域:4～8学級を基本		
山口県	H17 H27	H18～H26 H27～H36	○		●			※「第2期県立高校将来構想」 (H27年3月策定)に基づき、再編 整備計画の策定に向けて取り 組んでいる。「望ましい学校規 模」としている。	分校1学級	1学年2学級の学校について、生徒の通学実態等から望ましい学校規模の確保をめざした近隣の学校との再編統合が困難な場合には分校化を検討
徳島県	H17	H18～H30			●			徳島県高校教育改革推進計画 (H13年度策定)による。	本校入学者が1 学年80名を2年 連続して維持で きない場合は統 合を検討 分校入学者が1 学年30名を2年 連続して維持で きず、その後も 生徒数増が見込 めない場合は、 原則翌年から募 集停止	統合に伴い地域から高校がなくなり、通学距離、通学時間などからみて、他校に進学することが著しく困難な生徒が多数生じるなどの場合は、生徒の進学希望や高校に対する地元の支援等を前提に一定期間分校として維持する。
香川県	H21	H23～H32						現行計画では適正規模は設定 していない。		
愛媛県	H20	H21～H25	○		●				本校2学級 分校1学級	1学年の入学者が40人以下の状況が2年続き、その後も増える見込みがない場合は分校化
高知県	H26	H26～H35	○		●			県全体としては 1学年4～8学級 高知市及びその周辺地域は 1学年6学級以上	本校2学級 分校1学級 少なくとも1学年 1学級20人以上 が必要。 募集停止の猶予 期間は入学者が 20人に満たない 状況が2年連続 した場合	
福岡県	H11	H12～H20	○				●			
佐賀県	H26 H28	H26～H33 H28～H33	○		●					
長崎県	H21	H23～H32	○		●			定時制及び通信制の適正規模 は計画等には規定していない。	本校1学級	
熊本県	H19	H19～H27	○		●					次の基準を満たし、かつ今後も入学者の増加が見込まれない1学年2学級の学校にあっては、原則として分校化又は統廃合を行う。 ・入学者が、3年連続して1学級分以下の場合
大分県	H16 H20	H18～H21 H22～H27	○				●	生徒や地域の実情及び学校・学 科の配置状況等により、1学年4 ～5学級ができることも止むを得 ない。		
宮崎県	H24	H25～H34	○		●			特になし		
鹿児島県	H15	H16～H22								※H23年度以降は基本計画等は策定せず個別に対応
沖縄県	H23	H24～H33	○		●				本校2学級 分校2学級	学校全体の収容定員が240人を満たさないことが見込まれる学校については、地域の実情を十分考慮したうえ、分校化又は近隣学校との統合を検討

## 他府県の公立高校（全日制）における再編の事例

## ■統合

学校名 (募集定員)	兵庫県立豊岡総合高等学校 (環境建設工40、電気応用工40、総合学科120)
背景	兵庫県教委育委員会は、「 <b>県立高等学校教育改革第一次実施計画</b> 」(平成12年2月)を策定。新しいタイプの学校として、総合学科を設置 <ul style="list-style-type: none"> <li>すべての生徒が通学可能となるよう、普通科の学区に各1校、生徒数や学区の範囲において大規模な学区については複数校に設置する。</li> <li>各校の個性化・多様化を推進するため、単独の学校の改編あるいは生徒急減学区における学校の統合・改編により設置</li> </ul>
経過	<p>○平成15年4月</p> <div style="display: flex; align-items: center;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-right: 20px;"> <p>豊岡実業高等学校(全12学級) (土木科、建築科、電気科、 機械科、商業科)</p> <p>豊岡南高等学校(全8学級) (普通科)</p> </div> <div style="font-size: 2em; margin-right: 10px;">➡</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>豊岡総合高等学校(全18学級) 【豊岡実業高等学校校地】 (環境建設工学科、電気 応用工学科、総合学科)</p> </div> </div> <p>○平成16年4月 豊岡実業高等学校校舎に豊岡南高等学校が移転・併置</p> <p>○平成17年4月 豊岡実業高等学校・豊岡南高等学校を廃止し、豊岡総合高等学校完成</p>
特色	<p>○特色ある学科、授業</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>工業科・総合学科併置という特性を生かし、体験的な学習を通じて個々の生徒の自己実現を図る。</li> <li>工業の学科では、建築・土木工学、機械・電気工学に関する学習を、総合学科では進学対応・商業・福祉・家庭・情報等を学習</li> <li>ものづくりコンテスト・技能検定・インターンシップ等の取組</li> </ul> <p>○学科の特色を生かした高校生地域貢献活動 電子工作教室・木工教室・パソコン教室・清掃ボランティア・子育てボランティア・花いっぱい運動・独居老人宅電気工事ボランティア等</p>
成果	<p>○小規模校(普通科)を発展的に統合し1学年6学級の適正規模を確保</p> <p>○多様な学科を設置し、生徒の多様な学びや多様な進路希望に対応</p>
課題	○普通科+工業科+商業科が、総合学科+工業科となったことによる教員の兼務や教育内容の継承など

## ■キャンパス化(校舎制)

学校名 (募集定員)	山口県立大津緑洋高等学校 (普通120、農業60(生物生産、生活科学)、水産60(海洋技術、海洋科学))
背景 (経過)	山口県教育委員会は、「 <b>県立高校再編整備計画</b> 」(平成17年)において、再編整備の基本的な考え方として、望ましい学校規模(1学年4~8学級)の確保のため再編整備に取り組む中で、特色ある学校づくりを推進 <ul style="list-style-type: none"> <li>新しいタイプの学校・学科の設置</li> <li>選択幅の広い学習が可能な学校・学科の設置</li> <li>生徒のニーズや地域の変化を踏まえた学校・学科の設置や適正な定員設定</li> </ul>
再編の 方向性	<ul style="list-style-type: none"> <li>大津高校(普通科)、日置農業高校及び水産高校を再編統合して、3つの校地にある施設を活用した新高校を設置</li> <li>普通科、農業科及び水産科の教育機能を統合後の学校においても充実 <ul style="list-style-type: none"> <li>発展させ、各学科の連携を図りながら、学科の枠を越えた学習や多様な学習体験を可能とする選択幅の広い教育の展開など、質の高い特色ある学校づくりを推進</li> </ul> </li> </ul>

運営	<ul style="list-style-type: none"> <li>副校長を各校舎に配置して一定の権限を持たせ、スピード感のある運営を可能にする。</li> <li>毎月1回、3校舎の担当者による企画調整会議を開催</li> <li>同窓会、PTAも一本化して支援体制をとる。</li> <li>校舎間の移動用に、バス（県の費用）を運行</li> </ul>
成果	<p>○教育環境の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>農業科・水産学科のイメージアップに成功し、大きな定員割れを回避</li> <li>統合の際に、寮の建て替えや施設の新設・改修により教育環境の充実が図れた。</li> </ul> <p>○教育内容の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>音楽、商業、家庭科の教員は校舎間を移動して授業を担当する。</li> <li>全生徒が、体験航海や農業体験など、多様な経験が可能となった。</li> <li>学科間の相互乗入れで、多様な資格取得が可能となった。</li> <li>地域の歴史・文化を学ぶ「長門学」を設定</li> </ul> <p>○部活動の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>スケールメリットを生かして部活動が盛んになり強くなった。（ラグビー等）</li> <li>各校舎に核となる部を設置し、放課後にバスで移動</li> </ul>
課題	<p>○統合前、それぞれの学校に根ざしていた校務分掌や内規の考え方などを相互理解を得ながら再編整備していく必要がある。</p> <p>○校舎間を移動するための時間と費用</p>

#### ■小規模本校

学校名 (募集員)	兵庫県立篠山東雲高等学校 (地域農業科40)
背景	兵庫県教委育委員会は、「 <b>県立高等学校教育改革第二次実施計画</b> 」（平成20年2月）を策定。県立高校の望ましい規模と配置において、小規模校であることを活かした教育を行う特色ある学校として必要な場合には、1学年2学級以下の小規模校として存続するとし、「丹有学区(篠山市域含む)」については、 <b>地域の実情を踏まえた上で在り方を検討する</b> とした。
経過	<p>・地域の教育資源を活かした特徴ある取組が、地元農業振興に大きな役割を果たしていること、地元からの人的、財政的支援があることなどから、平成23年に篠山産業高校から分離独立し本校となった。</p> <div style="display: flex; align-items: center; justify-content: center;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> <p><b>篠山産業高等学校東雲分校</b> (昭和23年に定時制課程で開校) (昭和44年に全日制課程に移行)</p> </div> <div style="margin: 0 10px;">⇒</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> <p><b>篠山東雲高等学校</b> (平成23年本校開校)</p> </div> </div>
特色	<p>○小規模・少人数を生かし、<b>実習・体験を通じた教育</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>1学年1クラス40名（H27年：全校生徒110名、内篠山市内90名 82%）</li> <li>地域農業科は、作物機械、野菜園芸、生物利用、ふるさと特産、フードプロジェクトの5つの類型</li> </ul> <p>○地域を元気にする<b>研究の取組と成果の還元・発信</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「ECO-1 グランプリ」（H27年）では、最高位「内閣総理大臣賞」受賞 放置竹林の伐採・整備、及び伐採した竹をチップ化し乾燥汚泥の臭いの軽減や水素発生装置の開発等の継続的なまちづくり活動に取り組む</li> <li>坊ちゃん科学賞、ボランティアスピリット賞全国表彰等など</li> <li>神戸大学や県立農林水産総合技術センター等との連携により、「ウイルスフリー山の芋」、「丹波黒大豆の遺伝調査・病害対策」等の研究</li> <li>「丹波茶（黒豆）クッキー」、「高校生発案ケーキ」等の加工商品開発</li> </ul>
成果	<p>○農業科の強みを活かし、地域と密着した教育活動を展開</p> <p>○農業関係に就職など、地元（管内）就職率が高い</p>
課題	○近隣地域の生徒数減少による生徒募集の広域化と通学の利便性の向上